

脳と頭蓋底の血管系アトラス

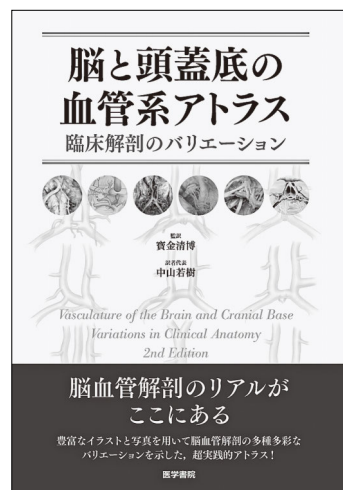
臨床解剖のバリエーション

實金清博【監訳】，中山若樹【訳者代表】

評者

田中美千裕

亀田総合病院脳神経外科／部長



“Anatomy, Descriptive and Surgical (解剖学，記述的描写と外科医の目線)” — これは 19 世紀に活躍した英国の解剖学者であり外科医でもあったヘンリー・グレイ (Henry Gray; 1827~61) による解剖書『グレイ解剖学』(1858 年初版) の背表紙に記されている言葉で，解剖学には記述的描写と外科医の目線が必要であることを強調している。

この “Descriptive and Surgical” という表現がまさにぴったりのアトラスが，このたび医学書院より刊行された。Walter Grand らによる『Vasculature of the Brain and Cranial Base — Variation in Clinical Anatomy (2nd Edition)』(Thieme, 2016) の日本語訳版である。

手触りのよい紙から作られた本書を開くと，ウィリス動脈輪近傍の動脈解剖の詳細とそのバリエーション，そして穿通枝の分枝様式が丁寧なイラストにより鮮やかに記述されている。各章では基本的解剖図譜に加えて高解像度の cadaver dissection の写真と MRI や脳血管撮影の画像が添えられていて，微小解剖と神経放射線学とのリンクがたやすい。

エキスパートにとってもその微

小解剖の理解が難しいとされる頸動脈眼動脈三角部 (carotid-ophthalmic triangle) の章では paraclinoid 周囲の組織や位置関係が美しい図譜とともに見事に記述されていて，バリエーションの記載も脳血管内治療医にも有益な情報がコンパクトにまとめられている。椎骨脳底動脈分岐部の穿通枝についても詳細な観察所見がシンプルなモノクロの図譜で示されていて，同部の解離性脳動脈瘤に対する治療戦略の指針となる。

欲を言えば各章で関連文献の reference があればさらに充実した臨床解剖書となったであろう。第 10 章の静脈系の解剖については神経内視鏡医にとっては必要にして十分な内容であるものの，硬膜動静脈瘻などを扱う脳血管内治療医には多少物足りないと感じるかもしれない。この点については詳細版の登場に期待したい。

しかし “Anatomy, Descriptive and Surgical” を具現化したとも言える本書は，開頭手術，カテーテル治療，神経内視鏡，神経放射線学，画像診断など多方面の領域で重宝される実践的アトラスであり，イラストから概要を捉えることがで

きるので多忙な臨床医にはとても嬉しい 1 冊である。

原出版社である Thieme 社の原書価格は 169.99 ユーロなので，本書の価格はとてもお買い得感のある設定となっている点も見逃せない。

「脳血管解剖のリアルがリーズナブルな値段でここにある」と言えよう。

A4 判・頁 304

2018 年 3 月

定価：本体 18,000 円＋税

[ISBN978-4-260-03457-9]

医学書院刊